

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

ダイコン

品種別、作期別の収穫時期と栽培方法

一般的に100～120cm程度の畝幅で栽培する時は、「白肌美人」や「緑輝」など青首系品種なら株間25cm、条間40cmの2条栽培とします。一方で「辛之助」「青長大根」「紅心大根」などは収穫サイズが小さいので、株間20cm、条間20cmの3条栽培が適します。

収穫までの日数の目安は11月どりの「白肌美人」で約60日、12月～1月どりの「緑輝」は70～120日と栽培期間が長くなります。年内どりにおいては生育の進みが早く、収穫時期が意外と短いので、9月上旬から中旬にかけて3～4回に分けて段まきすることが良品生産の上でのポイントになります。ちなみに収穫遅れによるス入りの発生は、ダイコンの品質を著しく低下させるので注意が必要です。

一方、収穫サイズの小さい「辛之助」でも約60日、「青長大根」「紅心大根」は65～70日と栽培期間は比較的長くかかります。これらの品種は肥大がゆっくりしており、まき時期が遅すぎると肥大不足で収穫サイズに至らないことがあります。適期播種を心掛け、年内収穫を基本としましょう。

圃場選定と畑の準備

良品生産をする上で欠かせないのは排水性、保水性のよい土づくりです。栽培期間中に乾燥や過湿を繰り返すと裂根やス入り、横縞症などの原因になります。また、過湿によって土中の酸素が不足すると根部の生育が著しく劣るので、水はけの悪い圃場では高畝栽培とします。さらには播種の1カ月前までに完熟堆肥などの有機物を投入し、膨軟な土づくり

をするよう努めましょう。この時に腐熟の不十分な堆肥を投入すると又根や肌の障害などの原因となるので注意が必要です。

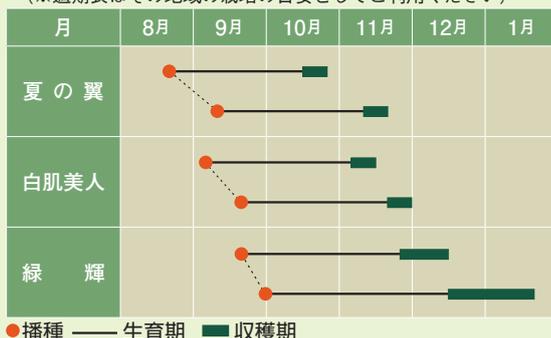
施肥量はチッソ成分で10㎡当たり80～150g程度を目安とし、播種の1～2週間前に施用しますが、栽培する時期や前作によって調節します。比較的暑い時期に播種する場合は少なめに、遅くなるにつれて徐々に多くしていきます。

病虫害対策のポイント

“安心・安全”をよりアピールポイントにするため、減農薬で作る被覆栽培についてご紹介します。

まず播種前に土壌殺虫剤を土に混和します。播種後は直ちに「サンサンネット」などの防虫ネットを利用し、害虫の飛来を防ぎます。この時に注意するポイントは、裾をしっかりと埋めて害虫の侵入を防ぐことです。また、栽培期間中はネットをできるだけ開けないようにすることが重要です。元肥中心の施肥設計とし、追肥作業を減らしたり、間引き作業以外は防虫ネットを開けないように工夫しましょう。例えばマルチ栽培と組み合わせることで、強い雨が降った際の土の跳ね返りによる病害の軽減や、肥料の流亡を避けることができ、追肥作業をなくすこともできます（マルチ栽培では途中で追肥ができないので緩効性肥料を併用し、生育途中で肥料切れさせないように注意する必要があります）。

■直売所出荷向け ダイコン標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)



辛みのしんのすけ「辛之助」

甘みの「紅心大根」

「大根おろしに医者いらす」

紅白の大根おろしを 楽しみませんか？

タネのタキイ

量販店にない品揃えと食べ方の提案で売上アップ！

ダイコン



ダイコン担当
田中 寛
たなか ひろし

軟腐病に強く秀品率の高い夏秋どりダイコン！ 「夏の翼」

秋どり（10～11月収穫）に適した、病気・生理障害に強い品種です。草姿は立性で株の勝ち負けが出にくく、収穫物がよく揃うことも特長です。また肥大はゆっくりで曲がり根の発生が少なく、ス入りも遅いので安心して栽培できます。本種の耐暑性を生かした秋の早どり栽培（10月どり）で、殺菌剤の散布を行わず減農薬栽培でアピールが可能です。



今年の目玉はこの品種！

夏の翼：耐暑性が強い特長を生かして、秋の早どり栽培も可能。軟腐病には特に強い。



辛之助：辛みの強い小型の丸ダイコンで、薬味用として最適。

※栽培技術の詳細は、タキイ最前線 2009夏号20～22頁を参照ください。

直売所出荷向きの品種選定

現在、市場で流通しているダイコンは青首総太り型品種がほとんどで、肌の美しさや形の揃いなどが特に重要視されています。一方で、直売所では地元農産物という安心感と鮮度が売りです。量販店との差別化は明らかですが、お客様を呼び込むためのもうひとつ工夫として、食べ方の提案と特長ある品揃えについてご紹介します。“ここでしか聞けない”“ここでしか買えない”といったオンリーワン直売所ならお客様の満足度は間違いなくアップし、リピーターになること間違いなしです。

やや短めで品質のよい青首品種！

常に棚に置いておきたい青首系では、やや短めの形状と品質でアピールします。中間地11月～1月まで連続出荷するためのおすすめ品をご紹介します。

11月どりは草姿コンパクトで肌のテリ・ツヤが特によい「**白肌美人**」です。この作型は生育初期が比較的高温の栽培になるので、葉勝ちによる根部形状の乱れや、横縞症による肌の汚れが問題になります。

12月～1月どりでは、低温期においても草勢が旺盛で作りやすい「**緑輝**」がおすすめです。

これら2品種の標準サイズは根長30～35cm程度で、量販店で扱われているダイコンよりやや短めでふっくらした重量感のある根形になります。また、「白肌美人」は特に浅漬けにすると歯ごたえがよいので、おすすめの食べ方として提案してみるのはいかがでしょうか。一方で「緑輝」は、とにかく煮食として

は最高の品質を持っているので、いろいろな煮ダイコンの調理方法を提案し、そのおいしさを味わってもらうことで“ダイコンを買うならここ”といったリピーターをぜひ増やしてください。

おろしにしておいしい！ かわいい品種

ミニサイズのダイコンをおろし用として扱うことで、量販店とは違うアピールをしてみませんか？

「**辛之助**」辛みが強く水分が少ないので、おろし専用として最適の小型の丸ダイコンです。辛みは作期や場所による差が少なく安定しており、とにかく辛みの欲しいお客様におすすめです。

「**青長大根**」長さ25cm程度で、外観のほとんどが濃緑色の品種です。また内部も緑色をしており、おろすと緑色のダイコンおろしになります。この品種は辛みが少なく、甘みが強いので子どもが喜ぶダイコンおろしになります。

「**紅心大根**」形状は小型の丸ダイコンで首色は濃緑です。輪切りにすると中が鮮桃紅色をしています。この品種も甘みがあり、食べやすい赤色のダイコンおろしができます。

以上3品種のうち「辛之助」と「紅心大根」をセットにして、“紅葉おろしできます”とって販売してみるのはいかがでしょうか。また「青長大根」はサラダとしてもシャキシャキしておいしく食べられますし、「紅心大根」は色と食感が酢漬けにも適します。

ミニポップの
使用例、募集！

当コーナーに掲載されているミニポップ（2008年冬春号以降）を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください（直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様）に「タキイくん」ストラップを差し上げます（2009年9月末日締切。当選発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。）

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

圃場選定と畑の準備

カブは生育期間中に乾燥や過湿を繰り返すと、裂根や尖り玉の原因になります。また、土中の酸素が不足すると根部の生育が著しく劣るので、保水性、排水性のよい圃場選びを心掛けましょう。そのような圃場がない場合は、土づくりが必要です。播種の1カ月前までに、十分に腐熟した堆肥や緑肥などの有機物を投入します。毎年続けることで徐々にふっくらした保水性、通気性のよい土になってきます。さらには肥料のもちもよくなり、安定した肥効が望めるのでさらなる良品生産が可能になります。その他に「CRもちばな」や「スワン」は側根が比較的細いため、風が強い場所では倒伏する恐れがあります。風当たりの少ない圃場を選びましょう。

また、アブラナ科作物の連作地で問題になる土壌病害に根こぶ病があります。根こぶ病が発生する圃場はできるだけ避けたいものですが、畑の排水をよくし、石灰を施用して土壌pHを上げることで病気の発生が抑えられます。

施肥量については土質や前作によって異なりますが、10㎡当たり100～150gとします。収穫後半まで肥料が効きすぎると裂根につながるため、速効性肥料を主体とした元肥中心の施肥設計とします。

生育初期の栽培管理（発芽～間引きまで）

果菜類の栽培において「苗半作」とよくいわれますが、カブの栽培においても初期生育のよしあしで栽培の成否が決まるといっても過言ではありません。2点のポイントをご紹介します。

発芽を揃える 栽培期間の比較的短い小～中カブは、“発芽を揃える”ことが良品生産の上で非常に重要です。発芽を揃えるためには、まず“均一に覆土を行うこと”が挙げられます。厚さが5mm～1cmくらいになるよう、丁寧に行いましょう。次に水分管理です。特に暑い時期に播種する場合は、発芽までの水分に注意が必要です。適湿を保つために覆土の上からもみ殻などをふることで、畝の表面が乾くのを防ぎましょう。

適期の間引きと中耕管理 葉と葉が軽く重なり始めたら間引く感覚で、本葉1～2枚目の時期と3～4枚目の時期の2回に分けて間引くのがよいでしょう。間引き遅れは根の変形や裂根にもつながるため、注意が必要です。間引き時に葉色が薄いようであれば、化成肥料か液肥で追肥をすると効果的です。また、

2回目の間引きの際に土の表面を軽く中耕しましょう。この作業で根の張りがよくなり、ひいては肥大期の生育がよくなります。除草を兼ねて一度は行いたい管理です。

減農薬のための病虫害の防除方法

カブの葉はコマツナなどの軟弱野菜と同じように調理でき、根部より栄養が豊富でぜひ食べていただきたい部分です。現在、小～中カブは葉つき出荷が主体で、葉に虫による食害があると商品価値が下がってしまいます。

問題となる害虫はダイコン栽培と同じです。対応策としては、土壌殺虫剤（粒剤）を播種前に土壌へ混和し、「サンサンネット」などの被覆資材を利用したトンネル栽培にするとよいでしょう。

また、病害軽減のために株間を広げることをおすすめします。株間を広げることで株と株の間の通気性がよくなり、白さび病などの病害の軽減につながります。一方で、株間が狭いと葉が軟弱徒長となり、葉色が薄く、葉軸の折れやすい店もちの悪いものになってしまいます。「CRもちばな」で約15cm、「スワン」で20cm前後の株間をおすすめします。



葉の食害を防ぐためにも被覆資材を活用し、商品価値の高い葉つき出荷を行いたい。

カブ

タネのタキイ



大好評の「スワン」カブ！
丸まる太ってむさ拔群！

葉もおいしい♪

鮮度とおいしさでリピーターを増やす！

カブ



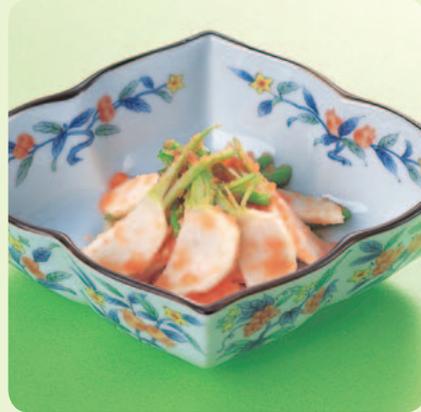
カブ担当
田中 寛
たなか ひろし



CRもちばな：根こぶ病に強く、夏場の栽培でも徒長しにくい。緻密でやわらかい肉質が特長。



スワン：やわらかく甘みがあり、漬物のほか、サラダ用に通用する良質性が特長の品種。



カブを使った調理例「明太子サラダ」。

ミニポップの
使用例
募集！

宛先：〒6008086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09 秋松POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

当コーナーに掲載されているミニポップ(2008年冬春号以降)を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイくん」ストラップを差し上げます(2009年9月末日締切。当選発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。)

直売所出荷向きの品種選定

カブはダイコンとともに、春の七草のひとつとして古くから栽培されている野菜のひとつです。現在も地方独自の在来品種が数多くあり、風味の豊かな漬物として地域の特産物となっています。直売所では、そのような個性豊かなカブを扱ってみるのもおもしろいと思います。

今回は特に肉質がやわらかく、甘みのある白カブ2品種を紹介します。癖がなく食べ方がいろいろできる品種なので、調理法を一緒に紹介することで売場の活性化に一役買ってくれること請け合いです。

生食でおいしさ際立つこの2品種！

紹介する2品種は浅漬けはもちろんのこと、生でそのままサラダとして食べてもおいしい、甘みとぬめりを持つのが最大の特長です。まず、小カブ栽培(直径6~8cm)では「**CRもちばな**」がおすすめです。特に暑い時期の栽培でその特性を発揮し、玉の変形やス入りの発生がほとんどなく、「サンサンネット」などを利用した被覆栽培においても葉の徒長が少なく、作りやすい品種です。暑い時期のご飯のおともとして、キュウリやナスと一緒に浅漬けセットとして販売してはいかがでしょうか？

中カブ栽培(直径8~10cm)では「**スワン**」がおすすめです。秋から冬にかけての栽培が主力ですが、気温の低下とともに甘みがのってくると、まるで柿のようなフルーティーな食感が味わえます。サラダで食べても本当においしい品種です。

おいしい秋~春どり小カブ 「CRゆきばな」

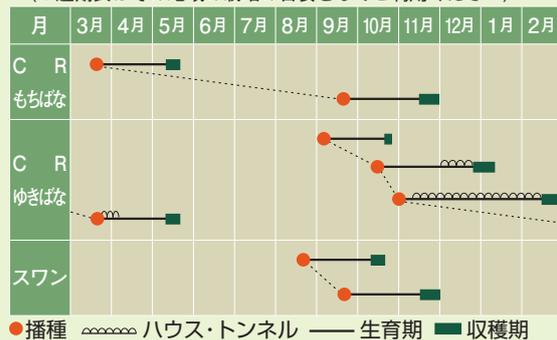
今年の目玉はこの品種！



CRゆきばな：肉質が緻密でやわらかく、ほどよい甘みがある。白くて色ツヤに優れた肌も特長の品種。

肉質がやわらかくおいしいと、産地や市場から評価をいただいている夏秋どり品種の「CRもちばな」。その流れをひく「**CRゆきばな**」は、秋~春どり用の小カブとして育成されました。葉軸がしっかりしており結束しやすく、また肌は白くて色ツヤに優れるので、荷姿においても大変美しい品種です。収穫時期でこの2品種を使い分け、おいしい小カブの周年栽培にチャレンジしてください。

■直売所出荷向け カブ標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)



直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

農薬を極力使わず、さらに味のよいタマネギを作ることが顔の見える販売での重点目標です。

除草剤を使わない

マルチ栽培が一般的ですが、中生品種の栽培では後半の水分切れが原因となって太りきれない場合も出てきます。例えば生分解性マルチフィルムの「ビオマルチ」などは徐々に分解されて春には水分が浸透し、追肥も可能なマルチでおすすめです。

露地栽培でも雑草対策はいろいろあり、基本的な栽培技術となっています。

中耕 定期的に土を動かすことで、雑草を発芽初期に枯らすことができます。

土入れ 2月ごろに通路の排水を整備する際、条間に土を入れてやります。玉が土にもぐると皮の着色がよくなり、それと同時に雑草も抑えられます。

有機物マルチ 切りわらや米ぬかなどでマルチすることで雑草も抑制され、土は膨軟になって乾燥にも強くなります。昔は必須の栽培技術だったものの最近は少なくなりましたが、復活させたい技術です。

減農薬栽培を目指す

直売所出荷では極力農薬は減らしたいものです。基本は残効しにくい苗床での防除を徹底し、収穫に近い時期での防除は避けることです。

近年多いべと病に関しては、越冬罹病株を3月に抜き取るとともに、初発の株を早期に処分することで大発生は抑えられます（しかしお隣で大発生してしまっ^{*}ては防ぎようもないので、3～4月にリドミル銅水和剤等で防除が必要になる場合もあります）。

一度発生した圃場は数年にわたり発生の恐れがあるので、栽培を避けるか、少なくとも育苗はタマネギ栽培をしない場所で行います。

※ご使用にあたっては登録の有無や内容をご確認のうえ、正しくご使用ください。

■直売所出荷向け タマネギ標準栽培 適期表
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）

品種名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
ターボ 露地	●	---	×	—	▲	▲	▲	—	—	■
アトン 露地	●	---	×	—	▲	▲	▲	—	—	■
ネオアース 露地	●	---	×	—	▲	▲	▲	—	—	■

● 播種 --- 育苗期 × 定植 — 生育期 ▲ 追肥 ■ 収穫期

減化学肥料で食味アップ

“栽培の安定と食味アップ”が直売農家の腕の見せどころです。すべてを有機で栽培するのは難しいところもあるので、50%有機を目指してはいかがでしょうか。それだけで、かなりおいしいタマネギになります。

堆肥や菜種かすは元肥で施してじっくり効かせるとともに、膨軟で保水性のある土をつくります。追肥は適期に効かせるため、化成肥料で結構なので量が多くならないように1、2、3月と分施します。有機ベースの栽培が食味をアップさせるのは、必要量を吸収・同化し、糖の蓄積がスムーズに進むからと思われます。

貯蔵アップの収穫適期

糖の蓄積で考えると、倒伏しても葉の糖が玉に転流するには1週間から10日はかかります。玉がしまって葉は少し黄化し始めれば完熟です。そんなタマネギは甘みが強く、貯蔵も安定します。



貯蔵することでおいしいタマネギを長期間にわたり出荷できる。

タマネギ

タネのタキイ

ジャンボタマネギ

「アトン」

見てビックリ! 食べてビックリ!

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

貯蔵出荷で“おいしい”を毎日お届け！

タマネギ



タマネギ担当
須江 淳起



ターボ：耐病性が強くて太りもよい、極めて作りやすい中生種。



アトン：辛みが少なく甘みの強い良質種で、栽培によってはソフトボール大にもなる大玉種。



ネオアース：色ツヤがよく貯蔵性に優れた中晩生種。長期貯蔵でも玉じまり良好。

直売所出荷向きの品種選定

タマネギは直売所で販売するのに最適な野菜のひとつです。直売所で売れる野菜の条件は、①毎日使う常用野菜、②量販店で買うより作り手の顔が見えて安心な要素、③栽培の手間がかからず長く毎日出荷できる、などではないでしょうか。

タマネギは規模の小さい直売所出荷レベルなら農薬散布の少ない栽培が可能で、収穫したら秋、冬まで貯蔵して毎日でも出荷できます。

今回は貯蔵出荷を目指したタマネギ栽培における品種選定と、栽培のポイントをご紹介します。

作りやすさで選択するなら

「ターボ」は中生のタマネギでは最も熟期が早く、5月下旬から収穫できます。また、肥料に対して敏感すぎず、作りやすい品種です。貯蔵すれば年内出荷が可能で、暖地でも秋まで楽々と出荷が可能です。

特別のおいしさで選択するなら

おなじみの「アトン」は、大玉でも肉質が優れるとびきりおいしいタマネギです。特にバーベキューシーズンの夏場は、少し大きめの「アトン」が売りやすい時期です。

貯蔵性で選択するなら

年明けまで出荷を目指すには、萌芽が遅く、尻も動かない「ネオアース」がおすすめです。

栽培ピックアップ

マルチと露地での栽培比較

写真1は滋賀県で11月上旬のタマネギ用マルチ（15×15cm）に定植した「ターボ」です。本年の暖冬もあって少し葉数過多で、大玉にはなりませんが熟期は遅れ気味です。最後は春の乾燥がきつく、マルチを除去して雨水を入れています。

写真2は、同じ「ターボ」の苗を11月下旬に露地で密植（条間15cm、株間8cm）したものです。露地は除草の手間が若干かかりますが、根張りがよく春の乾燥にも影響が少なく作柄が安定します。少し密植したことで球形の玉にきれいに仕上がっています。1kgが4球程度が使いやすいサイズです。

写真3はマルチ栽培でうまく結球できなかった事例です。早植えで葉数が進みすぎたり、肥大期に水分不足で起こります。乾燥に対しては、春先からマルチの条間に穴を増やして雨水が入りやすくするとよいでしょう。



写真1：11月上旬にタマネギ用マルチに定植した「ターボ」。



写真2：11月下旬に露地に定植した「ターボ」。

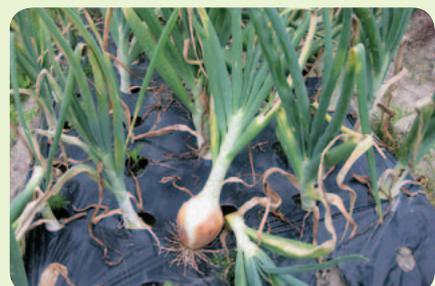


写真3：マルチ栽培でうまく結球できなかった事例。

ミニポップの
使用例、募集！

宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09 秋POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

ハクサイ栽培の基本

ハクサイの根は非常に広い根群を形成しており、この根の活動が旺盛な生育を支え、短期間に大きな玉を作ることができるのです。

ハクサイ栽培の最重要ポイントは、定植後（直播の場合は播種後）から生育初期にかけて順調に生育を進め、深く広い根群を確保することです。

よって、圃場選びのポイントは、保水性と排水性に優れ、根群の発育を邪魔しない深く膨軟な土層を持つ圃場が適しています。

肥培管理のポイント

土づくりとして、あらかじめ10㎡当たり堆肥20kg、苦土石灰0.5～1kgを施しておきます。水田裏作の標準的な施肥量は、年内どりで化成肥料（チッソ：リン酸：カリ＝10：10：10）を2kgとし、冬どりで全体に2割程度増やします。

追肥は年内どりで2回、冬どりで3回程度、速効性のものを施します。1回目は定植後10日～2週間目ごろ、株元に施します。次の追肥は定植後1カ月目ごろまでに畝間に施し、根を傷めないように管理機で中耕・培土します。それぞれの追肥量は、化成肥料で10㎡当たり300g程度です。

生理障害対策

石灰欠乏症やゴマ症などの生理障害は、土壌中の要素不足というよりも、何らかの条件によって要素が吸収できずに発生することが多いと思われます。

要因としては、多肥栽培による養分の吸収阻害、

乾燥による土壌塩類濃度の上昇や生育阻害、過湿による根傷みなどが挙げられます。

したがって、生理障害の軽減には、施肥体系の改善、深耕や良質な有機物の施用による土壌物理性の改善など“健康な土づくり”を心掛けてください。

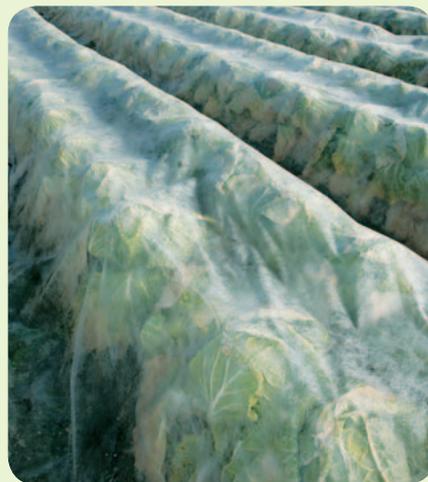
ハクサイ豆知識

おすすめ！こだわりの栽培

～厳寒期に良球を収穫するために～

ハクサイの冬どりでは、一般的な圃場貯蔵法として球頭部の結束が行われていますが、1玉ずつヒモで縛るのは労力的にも大きな負担です。

より簡便な圃場貯蔵法として、「テクテク」などの不織布によるベタかけが効果的です。その際、球頭部だけの被覆ではなく、ハクサイ全体を覆うような幅の資材を用いると、より耐寒性が高まります。被覆前にはしっかりと葉散をして、虫の温床にしないことがポイントです。



不織布でハクサイ全体を覆うことで圃場での貯蔵と労力の軽減も可能！

■直売所出荷向け ハクサイ標準栽培 適期表
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）

品種名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
中間地	晴黄60		●	●	●	●	●	■
	晴黄65		●	●	●	●	●	■
	晴黄75		●	●	●	●	●	■
	晴黄85		●	●	●	●	●	■
	晴黄90		●	●	●	●	●	■
			●	●	●	●	●	■

● 播種 --- 育苗期 × 定植 — 生育期 ■ 収穫期



ハクサイ キムチ向き
「オモニ」なら
漬けあがりも本格派！

ハクサイ

“安定した連続出荷”でアピールしよう！

ハクサイ



ハクサイ担当
千葉 潤一



晴黄60：べと病に強く、玉の肥大が良好な極早生種。



晴黄85：べと病に耐病性で生理障害の発生が少ない中生種。



晴黄90：べと病に耐病性で耐寒性と晩抽性に優れた冬どり中晩生種。

直売所出荷向きの品種選定

ハクサイはその重量の95%以上が水分ではありますが、栄養面でも優れた特性を持っている品目です。ビタミンCや食物繊維に加え、カリウム・カルシウム・亜鉛などのミネラル類がバランスよく含まれており、寒い日にハクサイたっぷりの温かい鍋を囲むというのは、栄養面から見ても理にかなっているといえます。

極早生～中晩生まで揃った「晴黄」シリーズを！

“安定した連続出荷”には「晴黄」シリーズをおすすめします。本年新しく「晴黄65」「晴黄75」が発表され、極早生から中晩生までのシリーズが揃いました。いずれの品種も球肉色が鮮やかな黄色で品質がよく、べと病や根こぶ病などの各種病害に強く、安心して作ることができます。

(※中間地と暖地を基準)

- 11月どり 「晴黄60」「晴黄65」
晴黄60) 耐病性、耐暑性に優れた肥大性良好な極早生種。(晴黄65) 各種耐病性に優れ、肥大性良好な良質早生種。
- 11月中旬～12月どり 「晴黄75」
肥大性に優れ、生理障害の発生が少ない中早生種。
- 12月中旬～1月どり 「晴黄85」
栽培容易で食味に優れた品質良好の中生種。
- 1～2月どり 「晴黄90」
耐寒性と晩抽性に優れ、在圃性良好な冬どり中晩生種。



温かい鍋を囲んで、ハクサイの栄養をたっぷりとりよう！

今年の目玉はこの品種！

歯ごたえ&うまみを楽しむ「オモニ65」



オモニ65：かための肉質でしっかりした歯ごたえがある。また、ハクサイ本来の甘みとうまみに富んでいる。

キムチ加工向けをうたい文句にしている「オモニ65」ではありますが、キムチ以外の用途でも、その食味が生きる良食味品種です。

鍋の具材に使用した際には、水分含量が少なくかための肉質が生きてきます。「晴黄」シリーズの場合“とろけるようなやわらかさとスープをしっかり吸ったうまさ”を味わえますが、「オモニ65」なら“シャキシャキ歯ごたえとハクサイ本来のうまみ”を味わうことができます。

ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09 秋葉POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。
当コーナーに掲載されているミニポップ(2008年冬春号以降)を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイクン」ストラップを差し上げます(2009年9月末締切)。当該発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。)

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

高温期の発芽について

レタスの発芽適温は18～20℃です。これより気温が高い時期に播種する作型では、休眠により発芽不良になることがあります。播種から数本が発芽するまでは、北側の軒下など直射日光が当たらず、風通しのよい涼しい場所に置いてください。

肥培管理について

レタス類は葉物類の中でも特に肥料に敏感な作物で、使用する品種や栽培する時期に合わせて肥料を増減する必要があります。基準の施肥量は10㎡当たりのチッソ成分で、10月どりは100～120g、11～12月どりなら120～150g、1～3月どりなら250～300gぐらいですが、土壌の肥沃度によって適宜調整します。

食味向上のポイント

レタスの食味は、水分や熟度によって大きく左右されます。土壌水分が極端に不足したり過熱になると、強い苦みを感じる場合があります。

甘くておいしいレタスを栽培するためには、マルチを利用して干ばつ時には適宜灌水を施し、スムーズな生育を行わせることが大切です。

また収穫期の判断は、玉レタスの場合は上から押

■直売所出荷向け レタス収穫時期別品種選定表

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冷涼地												
中間地												
暖地												

	玉レタス	非結球レタス		
		レッドリーフ	グリーンリーフ	その他
■	サウザー カイザー	サマールージュ サマーサージ 晩抽レッドファイヤー	ダンシング	ガーデンベビー マザーグリーン マザーレッド
■	サウザー 極早生シスコ	サマールージュ サマーサージ 晩抽レッドファイヤー	ダンシング	ガーデンベビー マザーグリーン マザーレッド
■	マリア パークレー スターレイ ウィザード	レッドフォルダー レッドファイヤー	ダンシング グリーンウエーブ	コスレタス ガーデンベビー マザーグリーン マザーレッド
■	レイヤード レガシー シスコ 冬シスコ	レッドフォルダー レッドファイヤー	ダンシング グリーンウエーブ	コスレタス ガーデンベビー マザーグリーン マザーレッド

※この表は概ねの品種適作型を示すものです。詳しい適作型は品種ごとに確認ください。

さえてわずかに弾力があるもの、「コスレタス」では球頭が閉じたころ、リーフレタスでは調製後の重量が300g前後、「マザーグリーン」「マザーレッド」では同じく250g前後が目安になります。

鮮度アップのポイント

鮮度もレタスの品質を大きく左右します。高温期の収穫では午前中に収穫を済ませ、温度を上げないようにすることで、収穫後の店もちがよくなります。逆に低温期の収穫では気温が上がってから収穫を行い、凍った状態での取り扱いを避けます。

また、収穫時に切り口から出る乳液を放置すると、酸化して切り口が褐変します。収穫後、乳液が乾く前に水道水で洗浄するか、きれいな布でふき取ると新鮮味が長続きします。

生理障害対策

葉先が茶色く変色、壊死するチップバーン（石灰欠乏症）は商品価値を著しく低下させます。特に非結球レタスは、玉レタスより発生が多く見られます。

発生の予防には良質の堆肥を投入し、保水と排水のよい土づくりを行うとともに、適切な肥培管理や干ばつ時の早期灌水などの対策が重要です。

病害対策

秋どりから春どりにかけては長雨や被覆下での多湿により、斑点細菌病や菌核病などが発生しやすく、いずれの病害も結球初期までに予防散布し、健全な外葉を育てることが良品生産のポイントです。

レタス



切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

タキイ

鮮度たっぷり、甘くておいしいレタスを作ろう！

レタス



レタス担当
石田 了



サウザー：ツヤのある濃緑の扁円球となる玉レタス。気温による玉の形状の乱れが少ない。



サマールージュ：多雨や曇天などの不良環境下でも発色が安定するリーフレタス。鮮赤色でボリュームに優れる。



適宜灌水を行い、生育をスムーズに進めることが食味向上のポイント。「マザーグリーン」「マザーレッド」では、調製後の重量が250g前後を収穫の目安に。

ミニポップの
使用例、募集！

宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09 秋POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

当コーナーに掲載されているミニポップ(2008年冬春号以降)を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイクン」ストラップを差し上げます(2009年9月末日締切。当該発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。)

直売所出荷向きの品種選定

お客様が直売所に向かう目的は何でしょうか？新鮮さや安心感、価格などは大きな魅力ですし、量販店にはない品揃えを楽しみにされている方も多いと思われます。

レタス類は色や形の点で変化に富んでおり、品揃えの豊富さを印象づけるアイテムとして打ってつけではないでしょうか。今回は“ほかとは違う品揃えと品質”の観点から、レタスの品種紹介と栽培ポイントについてご紹介します。

おすすめの玉レタス

「サウザー」は、トウ立ちが遅くて変形球の発生が少なく、気温が高い時期の幅広い作型に適しています。玉は濃緑で色ツヤがよく、新鮮味あふれる品種です。

「マリア」は玉太りがよくて外葉枚数が多いので、やや気温が低い時期の栽培に適しています。結球が緩やかで収穫期の幅が広い品種です。

「レイヤード」は、気温が低い時期でも葉の伸びがよく、トンネルやハウスを利用した冬季の栽培に適しています。玉の揃い・肥大・形状のよい品種です。

おすすめの非結球レタス

「サマールージュ」(レッドリーフレタス)は高温期の栽培に適し、曇天や長雨でも鮮やかな赤色に発色する高品質レッドリーフの新発売品種です。

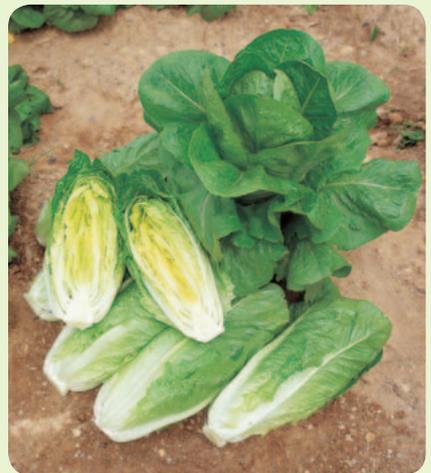
「マザーレッド」と「マザーグリーン」は、リーフレタスの栽培のしやすさと玉レタスに近いシャキシャキとした食味を併せ持つ、新しいタイプのリーフレタスです。

今年の目玉は
この品種！

肉厚で食味良好の立ちレタス 「コスレタス」

「ロメインレタス」ともいわれ、海外では栽培が盛んな種類で、ハクサイのように縦長に緩く結球するレタスの仲間です。玉レタスに比べ肉厚で、横に切ると筋と葉の部分が均等になり、食べやすく使いやすい種類です。

日本では海外ほど需要が伸びていませんが、代表的な用途は、シーザーサラダに利用されます。さらに生食のほか、お浸しや炒め物にも利用できます。



コスレタス：肉厚で食味良好の立ちレタス。立性で紡錘形に軟結球する草姿で、生育は旺盛で作りやすい。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

エンドウ

土づくり、肥料設計のポイント

マメ科の作物は連作を嫌うので、4～5年ほど間隔をあけて作付けします。エンドウは深根性なので、健全な根を張らせることが生育後半の収量アップにつながります。有機質の元肥を施すことで団粒構造を目指した土づくりをし、できるだけ深耕するようにします。土壌pHにもよりますが、10㎡当たり石灰は0.8～1.0kg、チッソは成分量で70～100gを施すのが基本です。

播種のポイント

エンドウは冬越しが一般的な栽培で、冬越しの際、株が大きいと寒害を受けやすくなります。上作のカギは「いかに冬場の低温を乗り切るか」で、本葉2枚程度の時期が最も耐寒性に優れており、関東以西の中間地や暖地では10月中旬～11月上旬が播種適期です。

畑はできるだけ南向きで風当たりの少ない場所を選び、北西側に防風ネットを設けて風害を防ぎます。畝幅は160cmに1条植えとし、株間は25cmとします。1穴に2～3粒ずつ直播し、種子が隠れる程度に覆土します。発芽までは極端に乾燥させないようにし、発芽が揃ったら間引きを行います。発芽するころに鳥害を受けやすいので、ベタがけ資材や防鳥糸などで対策するとよいでしょう。

整枝・誘引のポイント

生育前半に巻きひげが出てきたころ、ネットを張り、枝同士の間隔を10cm程度に保ちます。日照不足による結実不良を起こしやすいので、株全体に十分



巻きひげが出てきたころにネットを張る。さらに生育してきたら葉が込みすぎないように摘み取り、日光を当てるようにする。

日光が当たるようにしましょう。本葉4～5枚になって、また上部の側枝は葉が込みすぎないように適宜取り除いてください。株が広がってきたら、ひもを張って囲い込むように誘引します。

追肥・灌水のポイント

1回目の追肥は開花初めごろが目安で、チッソ成分で10㎡当たり30gを基準に施し、中耕・除草・土寄せも同時に行います。これ以降は、草勢を見ながら適宜追肥します。また、開花時期の水分不足は着莢に影響し、大幅な収量と秀品率の低下につながるため、乾燥させないように積極的に灌水して秀品率向上に努めます。

適期に収穫するには

実エンドウの「ウスイ」の収穫適期は莢自体が白くなってきたころになります。「久留米豊」や「南海緑」は莢色が濃く莢表面のしわが目立ちにくいので、実際に莢をむいて実の充実度を確認するとよいでしょう。

スナップエンドウは、子実が十分に肥大したころが最も甘く収穫適期です。「グルメ」なら莢の長さが10cm、「ジャッキー」なら8cmになったころです。キヌサヤエンドウは子実が目立つ前に収穫します。

■直売所出荷向け エンドウ標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

品種名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
中間地	キヌサヤエンドウ	●	●	●	●	●	●	■	■
	スナップエンドウ	●	●	●	●	●	●	■	■
	実エンドウ	●	●	●	●	●	●	■	■

● 播種 — 生育期 ■ 収穫期



切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

食味で差別化！ お客様にアピールを！

エンドウ



中山 健治
エンドウ担当
なかやま けんじ



ウスイ：実とり用の代表的品種。淡緑の
灰色で子実は緑色の豊産種。



グルメ：肉厚で甘みのあるスナップエン
ドウ。緑色でツヤのある莢は見た目の点
からも直売所にぴったり。



成駒三十日：肉質がやわらかく食味のよ
いキヌサヤエンドウ。耐寒性にも優れる。

直売所出荷向きの品種選定

おすすめの実エンドウ

実エンドウ品種は、品質により糖質型、でんぷん
質型、その中間型の3タイプに分類されます。

中間型に属する「ウスイ」は、強勢で分枝数が多
く双莢性の高いことが特長で、実とり用の代表的な
品種です。

今回別に挙げた「久留米豊」はこれとは異なり、
青実の糖含量の多い糖質型の代表的品種です。糖質
型という通り、食味は非常に甘みが感じられ、豆ご
飯以外にも料理の彩りとして幅広く使えます。おす
すめのレシピはポタージュなどのスープですが、糖
質型品種特有の甘さや香りが引き立ちます。また、
豆・莢ともに濃緑で、見た目にも優れます。同じ糖
質型の品種として「南海緑」もあります。こちらは
暖地の秋まきで、早めからの収穫をねらう方におす
すめです。

おすすめのスナップエンドウ

子実を大きくして莢ごと食べるスナップエンドウ
は、エンドウの中でも独特の歯ごたえと甘みを持ち、
近年、直売所でも人気が高まっています。「グルメ」
は特に甘みが強く、おいしさは群を抜いています。
灰色もツヤのある濃緑色で見た目に優れているので、
直売所向きの品種といえるでしょう。また、収量を
重視するなら、強勢で栽培容易な多収品種の「ジャ
ッキー」がおすすめです。

おすすめのキヌサヤエンドウ

キヌサヤエンドウは輸入品が多いため、鮮度がア
ピールポイントになる直売所出荷に向いているとい
えます。代表的な品種に、早生で豊産種の「成駒三
十日」と極早生で双莢性に優れた「兵庫絹莢」があ
ります。どちらも耐寒性に優れ、肉質がやわらかく
食味のよい品種です。また、莢が一回り大きくて食
味のよい「仏国大莢」、矮性で栽培容易な濃緑早生
種の「矮性赤花絹莢」も差別化商品としておすすめ
です。

今年の目玉は
この品種！

新鮮味あふれる甘いグリーンピース 「久留米豊」



久留米豊：食味と見た目とで断然
おすすめ！ 収量性・秀品率も
高い実エンドウ。

直売所における出荷で大切
なポイントは、味や見た目な
どで“いかにお客様に鮮烈な
インパクトを残せるか”です。
お客様にリピーターとして再
び購入していただくには、ほ
かの出荷者との差別化を図る
ことが売り上げアップにつな
がります。そこで、今年私が
作るなら、お客様が口に入れ
た瞬間「おっ！」っといわせ
るねらいで、食味に特長のあ
る「久留米豊」を作ります。

「久留米豊」は、食味・見た目に大変優れますが、高い収
量性・秀品率も特長です。初期の草勢は立性で、耐寒性があ
ります。生育が旺盛で、つるの伸長、開花は他品種より後ま
で長く続き、枯れ上がりが遅いので総収量が安定し、年によ
る豊凶が最も少ない品種です。

ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09 秋松POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。
当コーナーに掲載されているミニポップ(2008年冬春号以降)を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所
経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイくん」ストラップを差し上げます(2009年9月末日締切。
当該発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。)

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

栽培方法 — 摘みとり種の場合 —

栽植密度 栽培は定植を行うのが標準的で、本葉4～5枚のころが定植適期です。約120cmの床幅で株間15cm、条間15～20cmで条数を3～4条として定植します。

収穫 主枝の草丈が25cm程度になったら、4～5節（本葉4～5枚）残して主枝を摘芯・収穫します。主枝の摘芯位置が高すぎると、一次分枝の発生が多くなり、茎が細くなって徒長ぎみとなります。収穫は出荷規格の25cm程度になったら、2葉を残し各枝2本ずつの分枝を発生させて順次摘みとります（図）。



摘みとり種では図を参考に収穫を。主枝の徒長には注意し、良品収穫を心掛ける。

栽培方法 — 株張り種の場合 —

播種 畝幅120cm程度の畝を作り、条間20cm（4条まき）で条まきします。10㎡当たり60～70mlのタネをまくのが標準的です。播種後は薄めに覆土して軽く鎮圧し、灌水むらがないよう、均一かつ十分に灌水を行います（図）。

間引き 間引きは生育状況を見ながら、2回に分けて行います。本葉が2枚のころに1回目の間引きをします。生育の悪い株を間引いて、株間を2～3cmにします。

本葉が3～4枚目のころに2回目の間引きを行い、

株間を5～6cmにします。間引きを行うと生育が揃い、風通しがよくなり徒長しにくくなります。

収穫 秋まき栽培では、播種後35日前後の短期間で収穫できます。草丈15～20cmになったものから順次収穫します。販売先で下葉の黄化や腐敗の発生が起こらないように、調製は丁寧に行うことが重要です。

覆土は薄めに

シュンギクは好光性種子であり、発芽に光を必要とするので、播種後の覆土は薄めとします。

抽苔について

シュンギクは高温・長日条件で抽苔します。今回は秋まき栽培の解説ですが、春まき栽培では抽苔が始まる前に収穫を行いましょう。

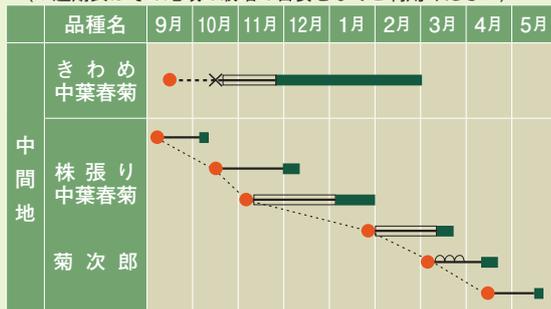
被覆資材の利用

播種直後に「サンサンネット」などを用いてトンネル被覆すると、ハモグリバエなどの害虫を防除し、強い雨に打たれることによる発芽不良や生育遅延を防ぐことができ一石二鳥です。

パイプハウス利用で良品生産

シュンギクの生育適温は15～20℃で、厳寒期どりではホウレンソウやコマツナに比較すると寒害を受けやすい作物といえます。低温期の栽培ではパイプハウス内で栽培し、「テクテク」などの不織布のベタがけやビニールトンネル栽培を行い、できるだけ保温して寒害の回避、生育促進に努めます。

■直売所出荷向け シュンギク標準栽培 適期表
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）



切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)



用途の広さと味覚をアピール！

シュンギク



シュンギク担当
近藤 英郎
こんどう ひでお



さわめ中葉春菊：低温伸長性と側枝発生力が抜群の摘みとり種。立性で摘みとりやすく、葉はやわらかくて香りに優れる。



株張り中葉春菊：分枝性の強い中葉の株張り種。草姿はやや開張型で揃いがよく、株元からの分枝が多い。



シュンギクを使った調理例「カリカリ揚げ」。

直売所出荷向きの品種選定

シュンギクには独特の風味があり、鍋料理には欠かせない食材です。また料理の用途が幅広く、天ぷら、和え物、お浸しや、やわらかい葉の部分を使えばサラダとしてもおいしく食べられます。

栽培方法には摘みとり型、株どり型の2種類があります。摘みとり型は、鍋物に使っても茎の部分が

シュンギク特有の香りやほろ苦さ、食感がしっかりと残っています。株どり型は葉がやわらかく、癖が少なく子どもが食べやすい味です。両タイプの味覚の違いを料理方法と併せて説明し、販売してはいかがでしょうか。

摘みとり種

長期間にわたり収穫するためには、節間が伸びやすく、生育後半でも茎が細くならないような品種を選びます。「さわめ中葉春菊」は低温伸長性と側枝の発生力が強く、濃緑色の良品を摘みとれます。

株張り種

節間が伸長しにくい株どり型の品種を使います。「株張り中葉春菊」は収量性が高く、「菊次郎」は濃緑色で品質がよく、草姿が立性で収穫作業がしやすい品種です。

石灰欠乏症に強く、揃いのよい株張り中葉種！「菊次郎」

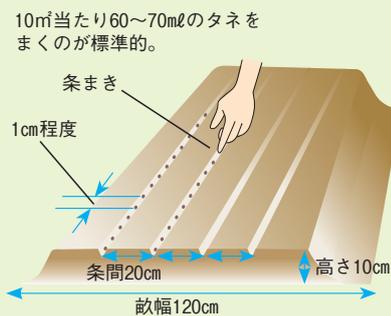
「菊次郎」はやわらかく、癖が少なく子どもが食べやすい味覚です。葉が濃緑色で品質が優れます。



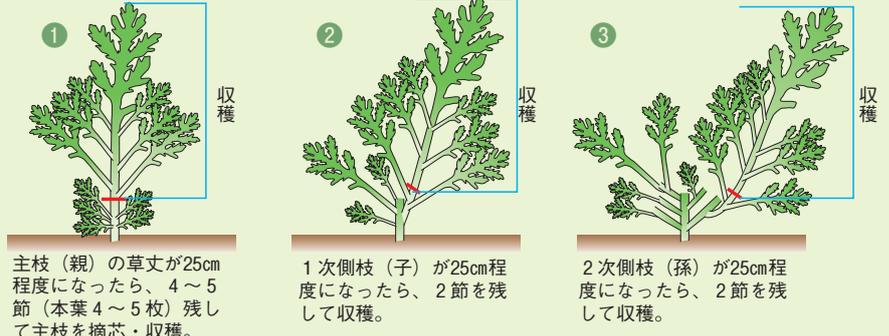
菊次郎：分枝性が強く株張りに優れ、葉揃いのよい株張り中葉種。

今年の目玉はこの品種！

シュンギク(株どり型)の播種方法



シュンギク(摘みとり型)の収穫方法



ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒6008086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09 秋松POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。
当コーナーに掲載されている「ミニポップ(2008年冬春号以降)」を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイトクくん」ストラップを差し上げます(2009年9月末日締切。当選発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。)

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

ハーブ類

お手軽！ セルトレイ利用の育苗方法

播種準備 トレイは、200穴または128穴を使います。トレイに入れる培土は追肥が不要で簡単に育苗できる「タキイたねまき培土」がおすすめです。培土10ℓに対し1ℓ程度の水を入れ、十分に湿らせた培土をトレイに入れましょう。指などで軽く播種穴を開けます。

播種 香辛料の種子は小さいものや大きいものがあります。小さい種子なら、ハガキ大の紙を折ったものなどを利用してまきます。1穴あたり小さい種子は3～5粒、大きい種子は1～2粒を目安に播種します。覆土はパーミキュライトを使用することで発芽を良好にします。

トレイの置き場 地面から30cm以上の高い場所に置くことで、風通しと地面からの土などの跳ね上りを防ぎます。

灌水・管理 初期の灌水はトレイの穴から水がにじむ程度が適量です。過湿条件では発芽不良になるので注意します。生育中期（本葉2枚目）以後は、トレイの穴から水が落ちる程度の灌水とします。

間引きは本葉1枚前後で行います。本数が多いものはピンセットなどを利用して早めに間引きます。

定植および管理

畑の準備 堆肥などの有機質を多めに施して、保水性と排水性のバランスのとれた土づくりを行います。元肥はチッソ、リン酸、カリを成分で10㎡当たりそれぞれ100g程度入れます。生育状況に合わせて追肥をしましょう。

定植時の注意点 株間は12cm程度にします。定植時の苗のスタイルは、根がトレイ全体に回り、根鉢が抜ける大きさが適期です。根が回りすぎ、根鉢が白くなった苗は老化苗で活着が遅れます。定植の際は根鉢と圃場の土が密着するよう、軽く押さえます。定植してから1週間ほどは、表面が乾いたら灌水を行います。

定植後の管理 株間は敷きわら、またはもみ殻をふって、土の跳ね上りを防ぎます。黒マルチでの栽培も有効です。香辛料はやわらかい葉が好まれるので、少し日よけをしてやりましょう。

病害虫の予防は定期的に薬剤散布が必要です。また、防虫網のトンネル栽培は虫の防除に有効です。「ロケット」や「クレソン」はコナガやアオムシなどが発生しやすいので注意しましょう。



播種の様子（写真はコリアンダー）。大きい種子は1穴当たり1～2粒を目安に播種する。



間引き時の状態（コリアンダー〈左〉とウォータークレス〈右〉）。ピンセットを利用すると間引きやすい。



ほどよく根が巻き、トレイからもスムーズに抜ける状態。これが定植に適したセル苗の状態（チャービル〈左〉とルッコラ〈右〉）。



定植する際は根鉢と圃場の土が密着するよう軽く押さえる。定植後は灌水を。

やわらかい葉を収穫するため、黒の寒冷紗で日よけをすることも有効。

タネのタキイ



イタリアンパセリ



ペパーミント



ディル



コリアンダー

スイートバジル

香り & 味のアクセント!

フレッシュハーブ

セル育苗利用で多種類の香辛料を栽培！

ハーブ類



タキイ研究農場
藤井 隆
ふじい たかし

直売所出荷向きの品種選定

香辛料野菜は食生活が豊かになるにつれ、食材としていろいろと使われるようになりました。野菜売り場には必ず香辛料野菜の販売コーナーがあり、種類が豊富に揃っています。道の駅などで出荷する場合にも、多種類の栽培が必要といえるでしょう。

今回紹介するトレイ育苗を利用した栽培は、たくさんの種類を少量で栽培することが可能です。いろいろな種類を栽培し、自分なりのアイデアで、生葉のままや加工しての出荷などにチャレンジしてください。ここでは現在よく使われている6種類の香辛料について説明します。

セルトレイなら多種類のハーブ栽培が可能！
“少量・多品目”で品揃えに幅を持たせよう！

播種時期：4～5月、8～9月



ウォータークレス (クレソン)：ヨーロッパ原産の湿地に生えるアブラナ科の多年草で、オランダカラシとも呼ばれます。生育適温が水温・気温とも15℃前後の環境で良品が多収できます。茎にピリッとした辛みがあり、サラダや肉料理の付け合わせによく合います。ビタミンAやCなどを豊富に含み、栄養価が高い品種です。

播種時期：4～6月



ペパーミント：シソ科の宿根多年草で、高さは60cmぐらいになります。茎葉にさわやかな香気と、舌を刺すようなクールな味覚成分を有し、世界中で一番需要のあるハーブです。利用例としてミントティーがありますが、疲れを取り去り、気分をすっきりとよみがえらせます。

播種時期：3～5月、9～10月



チャービル：フランス料理によく使われるセリ科の1年草です。葉はパセリに似ていますが、それよりもマイルドで甘い芳香があります。やわらかい葉を摘み、生のままサラダやサンドイッチ、オムレツ、スープ、シチューなどに利用します。

播種時期：3～5月、9月



イタリアンパセリ：セリ科の1～2年草です。葉がチリチリにカールしない平葉種のパセリで、葉、茎、根ともビタミンA、B、Cおよび鉄分、カルシウムなどのミネラルが豊富なハーブです。生育に合わせ、外葉から順次収穫するとよいでしょう。

播種時期：4月中旬～5月、10月まぎ(暖地)



コリアンダー (コウサイ)：強烈な匂いと風味を持つ南欧原産のセリ科の1年草です。草丈は30～50cm。夏に白～淡桃色の花をつけ、その後は直径2～3cmの球形種子ができます。若い葉を料理のツマやサラダ、スープの浮かし、炒め物などに利用します。種子もクッキーなどに利用できます。

播種時期：3～6月、9～10月



ロケット：ルッコラとも呼ばれるアブラナ科の1年草です。野生のダイコンの仲間、生葉にはゴマに似た香りがあり、クレソンのような辛みがあります。カルシウム、鉄分、ビタミンCが豊富に含まれます。主にサラダとして生葉を利用します。

ミニポップの
使用例、募集！
当コーナーに掲載されているミニポップ(2008年冬番号以降)を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所経営または出荷の方が対象です)。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキットくん」ストラップを差し上げます(2009年9月末日締切。当選発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください)。
宛先：〒6008086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09秋号POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

病害虫に強く育てやすい！

ニゲラ (くろたねそう)



ニゲラの莢

直売所出荷向きの品種選定

春から夏にかけて花を咲かせるニゲラは、病気や害虫に強く育てやすいため、直売所向けにも適した切り花です。花を咲かせた後は、風船にトゲを生やしたような不思議な形の実をつけます。花だけでなく、この実を生花やドライフラワーとして出荷することも可能です。

おすすめの「ペルシャンジュエル」

紫、青、桃、白などの鮮明な花色の混合品種です。

草丈も 100cm程度まで伸び、栽培しやすい品種です。

「ブルーイスタンブール」

濃青の一重咲き大輪晩生品種です。花卉が厚く、花もちがよいことが特長です。草丈は 120cm程度まで伸び、生育が旺盛なため水や肥料は抑えぎみに栽培します。1株から10~20本の切り花が得られます。

リモニューム、ニゲラ

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

播種から定植まで

ニゲラは直根性で移植を嫌うため、ペーパーポットを利用した播種が便利です。嫌光性種子のため覆土はやや厚めに行うことがポイントになります。また、直播栽培も可能です。

植え付けは過湿を嫌うため、排水性に優れた日当たりのよいハウスを選び、あらかじめ10㎡当たり堆肥20kg、チッソ、リン酸、カリを各分量で100g施します。ハウス栽培が標準ですが、春まき栽培では雨よけや露地栽培も可能です。ノーピンチ栽培では株間20cmの4条植え、ピンチ栽培では株間25cmの2条植えとします。移植栽培では根が切れないように本葉2~3枚程度の若苗を定植し、老化苗を植え付けないように注意します。

出荷までのポイント

定植後活着が確認されたら、その後は乾燥ぎみに管理します。ピンチ栽培では主軸が25cm前後まで伸びた時に摘芯し、わき芽を伸ばして複数本仕立てとします。寒さには強い植物なので、冬場でも無加温

ハウスで栽培できます。夏場の採花では、高温による花落ちが起こるので切り遅れには注意し、早めの収穫を心掛けます。実ものとして採花する場合は、風船のような実がしっかりとふくらんだころを切り前とします。



ペルシャンジュエル：草丈約100cmで、鮮明な花色の混合種。



ブルーイスタンブール：晩生種で花卉が厚く花もちがよい。

■直売所出荷向け ニゲラの切り花栽培 適期表

(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋まき栽培									●	●	×	×
春まき栽培			●	●	×	×						

●播種 ×定植 —生育期 ■出荷

ドライフラワーの作り方

リモニュームやニゲラ以外にも、バラや千日紅といったさまざまな花でドライフラワーを作れます。生花として長く飾った切り花をドライフラワーにしたという話をよく耳にしますが、美しいドライフラワーを作るためには新鮮な切り花を使うことがポイントです。

まず、新鮮な切り花を用意し、十分水揚げさせます。そして、直射日光の当たらない乾燥した場所で逆さにつるして自然乾燥させます。簡単な作業なので一度チャレンジしてみてください。

シリカゲルで強制脱湿させる方法もありますが、こちらは密閉容器を用いたアレンジメント向けのドライフラワーの方法です。

ドライフラワー、アレンジメントにも大活躍！

リモニューム (スターチス)



リモニューム
ニゲラ担当
池口 英明
いけぐち ひであき

直売所出荷向きの品種選定

一般的にスターチスの名で知られているリモニュームは紫系統の流通が多く、仏花、供花としてなじみの深い切り花です。また、ピンクや黄色といった明るい花色のものはアレンジメントなどの花材によく用いられます。ドライフラワーにも最適な切り花なので、生花を乾燥させ、出荷時期をずらして直売所で販売するのもひとつのアイデアではないでしょうか。

一般に流通しているリモニュームはメリクロン苗という組織培養を利用した品種が主流ですが、メリクロン苗は高品質である反面、種苗コストが高くなってしまいます。今回は、直売所向けに生産費を抑えた種子から育てるリモニュームをご紹介します。

おすすめの「ソピア」混合

花色はソフトブルーやパステルピンクを中心としたシェードカラーの混合で、単色に分けたりミックスといった出荷形態がとれます。草丈も70～80cmとよく伸び、実生品種としてはヒダの少ないスマートな草姿をしています。

「ボンデュエリ イエロー」

家庭需要に人気の高い黄色の単色品種です。茎はヒダの小さいスリムな草姿をしています。灰色かび病には弱いので注意が必要です。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

苗づくりのポイント

リモニュームは低温に感応してから花芽をつける性質があるため、高温期は控え、秋まきなどの涼温期の播種とします。288穴のセルトレイに播種し、本葉4枚程度で7.5cmポットに仮植して日中25℃、夜間15℃を目安に管理します。多湿を嫌うので、水管理は乾かしぎみに行います。

定植から出荷までの管理

排水性がよく、日当たりのよいビニールハウス内などに植え付けます。季咲き栽培では簡易な雨よけ施設での栽培も可能です。あらかじめ、10㎡当たり堆肥20kg、肥料はチッソ、リン酸、カリを成分量で各80g施し、よくなじませておきます。定植間隔は45cmの2条千鳥植えとします。

定植後、しばらくすると花芽が抽苔してきますが、

初めの数本は切除して株の充実を促すことがポイントです。採花する花芽が20cm程度に伸びてきたら、倒伏防止のためフラワーネットを張ります。低温には強いので、凍らない程度であれば加温は必要ありません。灰色かび病の防除のために換気をよくし、ヨトウムシ、アブラムシ、ダニなどの発生にも気をつけます。花房に蕾が残ったままの状態^{つぼみ}で採花すると残りの花が開きにくくなるため、上位から3花房程度が先端まで咲いてから収穫するようにします。



ソピア混合：人気の高い花色の混合。スマートな草姿も特長。



ボンデュエリ イエロー：アレンジメントの花材によく用いられる黄色花。

■直売所出荷向け リモニュームの切り花栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋まき栽培 中間地・暖地	×	→	→	→	→	→	→	→	→	●	●	×
春まき栽培 冷涼地	●	●	×	×	→	→	→	→	→	→	→	→

● 播種 × 定植 → 生育期 ■ 出荷